

3領域	6年間のゴール(ねらい)	年間目標〔令和2年度〕	活動	活動の評価		%	年間目標の評価	次年度の目標	
				点数	理由				
共同体作り	一人ひとりが神様から愛されているかけがえのない存在であることを感じられるようになる	お友だちの思いを受け止め受け入れることができる	互いの活動を大切にす	年長	3	一つの物を作り上げることに協力し、互いの作品の完成を喜び合っていた。	70	友達の思いよりも自分の思いを通そうとする場面が多い。	《目標》お友達の思いを受け止め受け入れることができる。 《活動》 年長→自分と他者との考えの違いを認め合えるようになる。 年中→相手の気持ちを尊重し行動する 年少→相手の存在を認める。
				年中	3	意識はしている様子があったが活動に移せていない時もあった。	65	最終的に受け止める事が出来るが、かなり時間がかかったり手が出てしまうことがあった。	
				年少	4	全員は出来なかったが、互いの活動を大切にす姿が見られた。	60	自分の気持ちを優先してしまうことがあった。	
宗教・精神的	子どもたちが自主的に祈り自分と他者を大切にすることができるよう宗教教育の充実を図る。	神様の存在を身近に感じて自主的に祈りする。	正しい十字架のしるしを身につける	年長	4	十字架のしるしの意味も伝えることができた。	75	階段のイエス様や部屋のマリア様に挨拶や自主的に祈りしていた。	《目標》 神様のことを知る  《活動》 正しい十字架のしるしを身につける。 神様のお話を読む。
				年中	2	個別に対応したが、習得するまでには至らなかった。	70	生き物や小さな命・誰かのために自主的に祈る姿があった。クラス間に差があった。	
				年少	3	見本がないと正しくできない。	80	休んだ友達や食べ物を落とした時にお祈りすることが出来た。	
文化・教育	職員はドンボスコの予防教育法を実践できるようになる。	ドン・ボスコの教育法の一つ『道理』を大切にす保育を行う。	子どもが納得できるように話す	年長	5	時間をかけて寄り添い、納得できるように話すことができた。	90	話し合いをすることや子どもたちの自身が納得することを心掛けていた。	《目標》 ドン・ボスコの教育法の一つ「愛情」を大切にす保育を行う。 《活動》 自分が愛されていると感じる信頼関係を築く。
				年中	3	向き合って話すようにした。子どもが納得するまでに時間を要することもあった為、もう少し工夫する余地がある。	75	色んな場面で自分で考えられるような場面を作ることが出来た。	
				年少	3	納得できるように話し合うが理解し、行動するまでが難しい。	80	話し合いをするが持続が難しく同じことを繰り返してしまう。	
	子どもたちが、いつ、だれにでも適切な挨拶ができ自分の言葉で気持ちを表現することができるようにする。	誰にでも元気に挨拶をする。 (職員だけではなく、お友達のお母さん、業者の方など)	進んで挨拶をする	年長	4	体験入園の保護者や園医の先生にも挨拶していた。	80	体験入園の保護者や園医の先生にも挨拶していた。	《目標》 挨拶をする意味を知る。  《活動》 姿勢を正して挨拶が出来るようになる。
				年中	3	元気に挨拶が出来るようになった。促しがないと挨拶が出来ないこともあった。	65	園医の先生や外部の先生には挨拶できる。業者の方へは促してからの挨拶になることが多い。	
				年少	3	促さないと挨拶をしないこともあった。	50	職員や保護者には進んで挨拶できるが業者の方には進んで挨拶が出来ない。	
社会的自立	子どもたちが日常生活の中で自信を持って最後までやり遂げる自立心と生きる力を身につけることができる環境をつくる。	失敗しても大丈夫という安心感を持ち「もう一度やってみよう」という気持ちを育てる。	積極的な言葉かけをする	年長	4	励ましの言葉を積極的に掛けるようにしていた。	70	自信を持てるように出来たことは褒めていくようにした。	《目標》 一つのことを最後までやり遂げる力を身につける。  《活動》 次の活動に行く前に事前の活動を終わらせる。
				年中	4	子どもが自信を持てるように言葉がけをし、一緒に喜び合うことで達成感を味わえるようにした。	80	声掛けや保護者の失敗を見ることで子どもにも安心感が生まれた。	
				年少	4	積極的な言葉かけをするも受け入れられず、気持ちを抑えることが難しい子もいた。	85	プラスになる声掛けをし、何事にも挑戦しようとする姿が見られる。	
	子どもたちが、自然や環境、人々とのかかわりの中で、社会のマナーを知り身につけられるようにする。	社会のマナーと自然を大切にす心を身につける。	園外保育に出かける。	年長	4	郵便の投稿や凧揚げに行った。	60	社会マナーを説明はしたがそれを実践して身につけることは出来なかった。	《目標》 社会のマナーを知り身につけられるようにする。  《活動》 物を大切にす。
				年中	3	おもちゃ等乱雑に扱う事があった。半面、絵本を自らテープで補正するなど大切にできる場面もあった。	50	友達同士の関わりの中で、気持ちが通じ合わずトラブルになることがあった。	
			物を大切にす	年少	2	持ち物を雑に扱ってしまう。	30	頭ではしてはいけないことは分かっているが、気持ちと行動が伴わない。	

NOTE: 活動の評価の点数《5—とてもよくできた(目標達成のために大きな効果が見られた) 4—よくできた 3—できた 2—あまりよくできなかった 1—できなかった》目標の評価の点数は、達成度をパーセントであらわしてください。(100パーセント達成できた場合は100)

時々様子が知りたかったと思うことや、もう少し園での活動の様子が知りたいと思うこともあり、少し物足りなさを感じることもありましたが、また例年目標を掲げておられる挨拶に関しても園全体の向上というよりも、年齢による相応の成長というような気もします。しかしながら先生方の努力なくしてはその成長も見られないはずがなく、年間を通して考えると子どもは成長しており、何よりも人を思いやれる優しい子に成長していると思うので、カトリック教育をさらに打ち出してほしいと思います。